



平成29年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

⑥生目地域自治区 平成29年8月25日(金)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆平成29年度のトークテーマ

共通テーマ

地域魅力発信プランの推進

地域テーマ

「みんなで考えよう！生目の未来！」

地域魅力発信プランは、お住まいの地域の現状を把握した上で、“将来はこんな地域にしたい”という将来像を明確にして、その実現のために地域の皆さまが取り組むべきことをまとめた地域自治区ごとの計画です。これまで、各地域自治区において、プラン実現に向けたさまざまな活動が行われてい

ます。
今年度は、このプランに基づく事業の展開を推し進め、これまで以上に地域の自主性・自律性を高めるまちづくりを支援するため「地域魅力発信プランの推進」をテーマに地域の皆さまと意見交換を行います。



◆市長から情報提供 豊かに「生きる」「暮らす」「働く」

人口減少が進む中、地域の活力を維持、向上させていくために、本市の中長期的な展望を踏まえ、「宮崎市地方創生総合戦略」を策定しました。今後は、この戦略に沿って、官民が一体となり、地域の特性やニーズにあった実効性の高い取り組みを推進し、地域経済の持続的な発展を目指していきます。

【5つの重点プロジェクト】

- ①クリエイティブ推進プロジェクト
新たな雇用やビジネスを創出するとともに、多様な働き方や雇用環境の改善を促すことで、人材の定着を図っていく。
- ②IJU(移住)推進プロジェクト
関係機関等の連携による住まいや就業等に関する相談や、移住者のフォローアップ、空き家等の流通を促進する。
- ③フードシティ推進プロジェクト
農業の生産基盤を維持するとともに、販路や交流人口の拡大を図ることで、ブランド力を向上させていく。
- ④観光地域づくり推進プロジェクト
広域的な観光地域づくりを推進するとともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催等を見据え、新たなファンの獲得に向けて、総合スポーツ戦略都市みやぎの取組を推進していく。
- ⑤地域コミュニティ活性化プロジェクト
地域課題をビジネスの手法等を用いて解決する中で、地域の多様な主体が公共の担い手になるなど、自主的、かつ持続的に事業を進める。



▲ 宮崎市の現状や課題、現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

● 地域の現状等を共有

生目地域自治区データ（現住人口：H29.4月現在 自治会加入率：H28.6月現在）
人口：13,165人（対昨年比▲90人） 自治会加入率：63.1%（市全体56.3%）

【地域の現状・課題】

- 平成24年に生目地区まちづくり構想検討委員会において、生目地区のまちづくりを検討し、『自然と歴史がふれあう快適なまち“生目”』を将来像とする「地域魅力発信プラン」を作成した。
- その中の3つの基本目標を達成していくために、まずは「生目のお宝はなんだろうか」ということで、生目地域自治区地域協議会で検討を重ね、11のお宝（※）を選定した。（※生目の郷土芸能、黒皮かぼちゃ、生目の杜運動公園、生目古墳、生目神社、人の温かさ など）
- 生目のまちづくりを未来へつなげていくためには、地域住民のまちづくりへの関心を高め、住民が主体となって進めていく必要がある。

◆ フリートーク

- まず、生目のお宝を多くの人に知ってもらうことがスタートで、インターネットやSNSは強い武器。人を集め意見を聞いて、それを取り入れていくことが宝磨きにつながる。
- 見た目にこだわった写真をSNSで発信する「インスタ映え」が流行。黒皮かぼちゃを使ったスイーツや、郷土料理を子どもと作るイベントを発信していけば、お宝の発信や特産品の伝承になる。
- 生目の杜運動公園で行われるプロ野球キャンプやイベント、各種大会には大変な集客力がある。地域で飲食物や特産品の販売など、何かできないか。また、名所マップを作り、生目のお宝や人の温かさに触れていただきたい。
- プロ野球キャンプを見に来た人に、それ以外の楽しみ方として、例えば、農家が運営する農民カフェで黒皮かぼちゃなどを提供できないか。きっとインスタ映えになり、情報発信力の向上につながる。
- 福岡で開催されたPTAの大会に参加した際、生目から来たと言っても誰も知らない。ソフトバンクホークスのキャンプ地の生目と言ったら盛り上がった。生目神社など他のお宝も含め、伝え方や見せ方の発信方法を工夫しなければならない。
- 生目の杜運動公園全体を使って、様々なスポーツを体験できるスポーツフェスタのようなイベントができるとおもしろいのでは。また、野球やサッカーとは別に、他の運動公園にはないフットサル場を整備したり、祭りを開催したりすると、集客力や発信力が高まるのではないかな。



【傍聴者を含め会場全体で意見交換】

- 生目の杜運動公園の陸上競技場にサブグラウンドが必要。これがないと大規模な大会は誘致できない。カフェの建築は、農地開発の規制の問題がある。また、ホテルも生目のお宝で、天然のホテルとしては市内最大の生息地。生目のホームページやフェイスブックを独自で作成し、発信するといったのでは。
- 生目古墳群史跡公園は素晴らしい施設であるが、上手に活用されていない。広場でグランドゴルフをするにも少し面積が足りない。地域でラジオ体操会を開催するなどして、人が集まる場所にしたい。
- 生目の歴史などを学ぶ「トコロジスト」養成講座を主催している。知って理解することで生目を愛する気持ちが高まる。最終的には「子どもトコロジスト」まで行い、生目のPRパーソンを増やしたい。

● 市長から回答、感想

- 陸上競技場のサブグラウンドは土地の確保ができないので難しい。カフェ等の建築については、開発許可の要件に合致すれば可能。ホテルに関しては、細江地区では子どもたちが文化祭で発表しているが、最大の生息地であることは知られていない。SNSを活用するなど発信力が大事だと思う。
- 市郡医師会病院の敷地には2ヘクタール程の公共用地が確保される予定。災害発生時には仮設住宅が設置されるが、平時は空き地。芝を植えるとグランドゴルフやイベントなどもできるのではないかな。活用法については、地元にも相談させていただきたい。
- 地域のお宝を発掘・発信し、地域に対する誇りや愛着を醸成することが、次世代の育成につながっていくのではないかと考える。

～参加者アンケートより～

- ★生目の宝をどう結びつけていくか。そして、発信力が大事だなと思った。
- ★生目地域には、西環状線や高速道路のインターチェンジがあり、交通の利便性が高いこともPRしてはどうか。
- ★若い世代を含めた多世代間で語り合うことで、地域の将来が明確になるのではないかと感じた。

〈お問い合わせ〉

宮崎市 秘書課広報広聴室
TEL 21-1705
FAX 21-1909

宮崎市 生目地域センター
TEL 48-1111
FAX 30-4001

